

ビジネスパートナー都市（BPC）ラウンドテーブル
クアラルンプール 2019
報告書



大阪ビジネスパートナー都市交流協議会

目次

BPC ラウンドテーブル 2019 クアラルンプール 概要	1
BPC ラウンドテーブル 2019 クアラルンプール 全体日程	2
ラウンドテーブル会議 開催報告	3~13
(出席者/会議風景写真/各都市のプレゼンテーション・発言骨子)	
BPC ネットワーキング昼食会 開催報告	14
MATRADE 施設視察ツアー 実施報告	14~15
マレーシアビジネス商談会 (併催イベント) 開催報告	16
BPC ネットワーキングレセプション開催報告	17
クアラルンプール シティーツアー 実施報告	18

BPC ラウンドテーブル 2019 クアラルンプール 概要

大阪市と大阪ビジネスパートナー都市交流協議会は、マレーシア貿易開発公社 (MATRADE) との共催により、2019年11月21日(木)にMATRADE本部ビルにて「BPC ラウンドテーブル 2019」を開催しました。BPC ネットワークの創設以来、クアラルンプールでは初めてとなる本会議ではビジネスパートナー都市より10都市が集まり、「インダストリー4WRD と共に前進を～Moving Forward with Industry4WRD～」とのテーマのもと、各都市よりインダストリー4.0の促進に向けた取り組みや課題が発表され、活発な情報交換が行われました。

同日の午後には、MATRADE の主催による「BPC ネットワーキング昼食会」が行われた後、マレーシアの輸出産品と貿易史、そしてマレーシア国際貿易展示センター (MITEC) の紹介を目的とした「MATRADE 施設視察ツアー」が実施されました。また、別会場では、在阪企業とマレーシア企業とのビジネスマッチングを目的に「マレーシアビジネス商談会」が開催されました。

同日の夕刻には、大阪市の主催により「BPC ネットワーキングレセプション」が開催され、会議参加者、在外公館・経済団体関係者、ビジネスミッション団など約60名が交流を行いました。

BPC ラウンドテーブル会議の翌日、22日(金)にはクアラルンプール市の主催による「クアラルンプール シティツアー」が実施され、会議参加者はクアラルンプール市庁舎をはじめ、ジャメ・モスクやリバーオブライフエリアなどを訪問し、クアラルンプール市の歴史や街づくりについての理解を深めました。



ラウンドテーブル会議終了後に行われた記念撮影

BPC ラウンドテーブル 2019 クアラルンプール 全体日程

11月21日(木)

- 10:00-12:00 **BPC ラウンドテーブル**
テーマ : 「インダストリー4WRD と共に前進を ～Moving Forward with Industry4WRD～」
会場 : MATRADE 本部ビル東館 22 階「プトラルーム」
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者
- 12:30-14:00 **BPC ネットワーキング昼食会**
主催 : マレーシア貿易開発公社 (MATRADE)
会場 : MATRADE 本部ビル東館 23 階(中二階フロアー)
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者
- 14:30-15:30 **MATRADE 施設視察ツアー (第一部)**
訪問先 : マレーシア輸出展示センター (MEEC) ～ トレードミュージアム
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者
- 16:00-17:00 **MATRADE 施設視察ツアー (第二部)**
訪問先 : マレーシア国際貿易 & 展示センター (MITEC)
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者
- 14:00-17:30 **マレーシアビジネス商談会 (BPC ラウンドテーブル併催イベント)**
主催 : 大阪市、マレーシア貿易開発公社 (MATRADE)
会場 : MATRADE 本部ビル西館 5 階「ジャカルタルーム」
参加者 : 大阪ビジネスミッション団、マレーシア企業
- 18:30-20:30 **BPC ネットワーキング レセプション**
会場 : サンウェイプラホテル クアラルンプール 35 階「Meet on 35」
主催 : 大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者、ビジネスミッション参加者
在外公館・経済団体関係者、主催者関係者

11月22日(金)

- 9:30-13:00 **クアラルンプール シティツアー**
主催 : クアラルンプール市政府
訪問先 : クアラルンプール市庁舎 ～ ジャメ・モスク ～ リバーオブライフエリア
～ クアラルンプールシティギャラリー ～ クラフトコンプレックス
参加者 : BPC ラウンドテーブル参加者

BPC ラウンドテーブル会議 開催報告

大阪市と大阪ビジネスパートナー都市交流協議会は、マレーシア貿易開発公社 (MATRADE) との共催により、2019年11月21日(木)の午前中に MATRADE 本部ビルにて「BPC ラウンドテーブル 2019」を開催しました。BPC ネットワークの創設以来、クアラルンプールでは初めてとなる本会議では、ビジネスパートナー都市より 10 都市が集まり、「インダストリー4WRD と共に前進を～Moving Forward with Industry4WRD～」とのテーマのもと、各都市よりインダストリー4.0 の促進に向けた取り組みや課題が発表され、活発な情報交換が行われました。

開催日時： 2019年11月21日(木) 10:00～12:00

会 場： マレーシア貿易開発公社(MATRADE) 本部ビル 22階「プトラルーム」

主 催： 大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会

マレーシア貿易開発公社(MATRADE)、クアラルンプール市

テ ー マ： インダストリー4WRD と共に前進を ～Moving Forward with Industry4WRD～

司 会： MATRADE 中国・東北アジア地区部 課長補佐 ダイアン・ジェシカ・レオン氏

モデレーター： MATRADE 中国・東北アジア地区部 担当部長 カイルル・アヌアル・アブドゥル・ハリム氏

プログラム：

10:00～	開会 ～ 歓迎挨拶 マレーシア貿易開発公社 最高経営責任者 (CEO) ワン・ラティフ・ワン・ムサ 氏
	開会挨拶 大阪市 経済戦略局長 柏木陸照
	司会からの会議出席者紹介
①	マレーシア国際貿易産業省 (MITI) プレゼンテーション
②	香港貿易発展局 プレゼンテーション
③	エンタープライズ・シンガポール プレゼンテーション
④	フィリピン貿易産業省 外国貿易サービス公社 プレゼンテーション
⑤	ジャカルタ商工会議所 プレゼンテーション
⑥	上海市商務委員会 プレゼンテーション
⑦	ホーチミン市人民委員会 プレゼンテーション
⑧	メルボルン市 プレゼンテーション
⑨	ハンブルク商工会議所 プレゼンテーション
⑩	大阪市 プレゼンテーション
11:30～12:00	ディスカッション
12:00～12:10	閉会挨拶 マレーシア貿易開発公社 最高経営責任者 (CEO) ワン・ラティフ・ワン・ムサ 氏
12:10～12:15	「マレーシア国際ハラール見本市 (MIHAS)」プロモーション
12:15～12:30	記念撮影

【出席者：10都市、40名】

	都市	団体名	部署・役職	名前	
1	香港	香港貿易発展局	マレーシア事務所 所長	ホー・ジー・エン	
2	シンガポール	エンタープライズ・シンガポール	クアラルンプール事務所 東南アジア地区 担当部長	ネオ・イ・リヤン	
3	マニラ	フィリピン貿易産業省 外国貿易サービス公社	フィリピン貿易投資センター (PITC) クアラルンプール事務所 (在マレーシアフィリピン大使館 商務官)	カトリーナ・バンゾン	
4	ジャカルタ	ジャカルタ商工会議所	海外/E コマース委員会 常任委員長 多国間/自由貿易協定委員会 常任委員長	マルアブ・シアハーン イムラン・コカ	
5	上海	上海市商務委員会	外事処 処長 経済協力部 課長	羅 志松 (ラ シゾン) ス・グオシヤン	
6	ホーチミン市	ホーチミン市人民委員会	産業通商局 副部長 産業通商局 輸出入管理部	グエン・タイン・ソン グエン・ヴァン・フユ	
7	メルボルン	メルボルン市	評議員 事業開発担当	ケビン・ルーイ ミーガン・コックロフト	
8	ハンブルク	ハンブルク市・ハンブルク商工会議所	アセアン地区 広報大使	ラルフ・シュミット	
9	クアラルンプール	クアラルンプール市	地域開発・アーバンウェルビーイング部長	モハマド・ハミム	
			経営企画部 副部長	イザトゥル・アイニ・イブラヒム	
			地域開発・アーバンウェルビーイング部 支部長	ファイサル・ビン・マフモド	
		マレーシア国際貿易産業省 (MITI)	最高経営責任者 (CEO)	ワン・ラティフ・ワン・ムサ	
			副最高経営責任者 (輸出開発)	ダトゥク・オーレン・ジャン・ノニス	
			副最高経営責任者 (輸出拡大)	モハド・ムスタファ・アブドゥル・アジズ	
			マレーシア国際貿易産業省 (MITI) 部門別政策部長	ヴィマラ・ムルガン	
			中国・東北アジア地区部 部長	カイル・アヌアル・アブドル・ハリム	
			電気製品・電子機器、ICT、機械・機器部 部長	チョン・ユン・ジャン	
			電気製品・電子機器、ICT、機械・機器部 部長	ダミアン・サントス・サムソン	
			広報部 課長	ズハイラ・アクマル・モハド・セデク	
			マレーシア貿易開発公社 (MATRADE)	広報部 課長補佐	モハマド・サイフルハフィズ・ジャーファル
				中国・東北アジア地区部 課長	ロスリナ・ロング
			中国・東北アジア地区部 課長補佐	ナディヤ・ハニム・ムニル	
			中国・東北アジア地区部 課長補佐	ホン・ジア・シン	
			中国・東北アジア地区部 課長補佐 (司会)	ダイアン・ジェシカ・レオン	
中国・東北アジア地区部 インターン	アリフ・イスマイル				
管理部	写真家				
10	大阪	大阪市	経済戦略局長	柏木 陸照	
			経済戦略局 立地交流推進部 都市間交流担当課長	一入 朋子	
		大阪ビジネスパートナー都市 交流協議会 事務局	常務理事 兼 事務局長	原 法康	
			一般財団法人大阪国際経済振興センター 国際部長	森 健二郎	
		大阪市	経済戦略局 立地交流推進部 都市間交流担当係長	佐伯 智	
			大阪ビジネスパートナー都市 交流協議会 事務局	一般財団法人大阪国際経済振興センター 国際部 課長代理	在田 昌弘
オブザーバー	政府機関/経済団体	マレーシア・デジタルエコノミー公社 (MDEC) 課長	ライアン・チャン		
		自動車・ロボティクス・IoT 研究所 (MARii) 最高技術責任者	ニズマル・モハド・ナザール		
		エネルギー・技術・科学・気候変動・環境省 戦略立案部 次官補	ケシミンダー・シン		
		マレーシア投資開発庁 (MIDA)、セランゴール州	ジャズリ・ヒダヤット・アブド・シュコル		

【BPC ラウンドテーブル 会議風景】

開会挨拶 (MATRADE CEO ワン・ラティフ・ワン・ムサ氏)



各都市のプレゼンテーション



フリーディスカッション (モデレーター MATRADE カイルル氏)



開会挨拶 柏木 経済戦略局長



【各都市のプレゼンテーション・発言 骨子】

【開会挨拶】 マレーシア貿易開発公社 最高経責任者（CEO） ワン・ラティフ・ワン・ムサ氏

大阪市をはじめ、ビジネスパートナー都市の皆様のご来訪を心より歓迎申し上げます。そして、このラウンドテーブル会議の開催地として、初めてマレーシア貿易開発公社を選んでいただき感謝を申し上げます。現在、製造業においては、メカニカルチェーンからデジタルチェーンへと大きな変革が起こっているが、今後、グローバルサプライチェーンにも大きく関わってくるこの大きな変革に如何に順応してゆくかということが非常に重要な課題であると考えている。本会議ではインダストリー4.0をテーマとして、BPCの各メンバーの取り組みや課題が共有されるが、皆様にはそれらを参考にしていただき、将来的には都市間の連携をより一層深めてゆければと思う。本日は有意義な議論が出来ることを願っている。

【開会挨拶】 大阪市 経済戦略局長 柏木 陸照

まず初めに、ラウンドテーブルの開催及び諸行事の開催にあたり、多大なるご尽力をいただいたマレーシア貿易開発公社とご関係各位に感謝を申し上げますとともに、日頃よりビジネスパートナー都市間相互の経済交流の促進にご尽力いただいているBPCメンバーに対して深く敬意を表する。本年9月には、EU地域を代表する都市であるドイツ、ハンブルク市と新たにBPC提携を結んだが、この提携によりBPCネットワークが更に活用できるものと確信している。本日は「インダストリー4WRDとともに前進を」をテーマに、各都市の取組の紹介や意見交換が行われるが、この多様な経済的背景を持つ各都市が議論を交わすことで、本会には有意義な意見交換の場となり、相互の発展につながってゆくと考えている。最後に、このBPCネットワークがより強固なものとなり、民間レベルでの経済交流がより一層活性化していくことを期待している。

【各都市のプレゼンテーション】

発表者：マレーシア国際貿易産業省（MITI）部門別政策部長 ヴィマラ・ムルガン氏

マレーシアでは製造業におけるGDPは全GDPの22.7%を占め、97%もの中小企業を含む約4万9,000社が製造業に従事しており、製造業者のデジタルイノベーションを進めてゆくことが大きな挑戦となっている。2018年10月にマハティール首相が発表したIndustry4WRDは、製造業者、特に中小企業が抱える、成功事例、資金、そして技術の不足などといった課題や付随する要求に対して、必要なインフラやインセンティブを整備し、提供してゆくことで、適切なエコシステムが構築され、企業自らがより快適に自信を持って変革してゆくための仕組みである。一つの取り組みとして、現在レディネスアセスメント（準備査定）という、中小企業に対してインダストリー4.0、デジタルトランスフォーメーションに取り組むための準備がどの段階までできているのかを評価し、それに伴う必要な投資やサポートを行うプログラムを提供している。

発表者：香港貿易發展局 マレーシア事務所長 ホー・ジー・エン 氏

香港では海外の顧客から小規模で特別仕様によるものづくりの依頼が増加しており、スマートデータなどで効率化された生産システムにより、高付加価値でハイテクな製品を提供してゆくことが求められている。そういった意味でインダストリー4.0の促進は香港の再産業化、経済成長に不可欠である。一帯一路構想におけるグレーターベイエリアに位置する香港はまさにインダストリー4.0振興の触媒となる都市であり、現在、マカオ、深洲との間でビッグデータやフィンテックを駆使した検証を行いながら経済統合を進めている。香港としてはフィンテックとロジスティクスハブとしての役割を担うべく、ブロックチェーンによる貿易金融プラットフォーム「eTradeConnect」を立ち上げ、香港国際空港に新たなデジタル物流拠点を設置するなどグレーターベイエリアへのビジネス機会を増やすための取り組みを行っている。また、香港は生きた実験の場として、外資系企業、特にシーメンスなどのテクノロジー企業に対しても知的財産保護、金融・専門サービス、税制優遇などの支援を行い、理想的な投資環境を整えている。

発表者：エンタープライズ・シンガポール クアラルンプール事務所 北東アジア地域 担当部長 ネオ・イ・リャン 氏

シンガポールでもインダストリー4.0の促進に向けた製造業における生産効率性や労働生産性の向上のためのロードマップを策定しており、2017年にはその導入に向けた準備度を計るスマートインダストリー準備指数（SSIRI）を、2018年には第2次スマートインダストリー準備指数を開発し、シンガポール経済開発庁の出資の元、私たちを含む様々な政府機関が中小企業や多国籍企業に支援を行なっている。昨年にはテクノロジー系の中小企業、地元大企業、多国籍企業から10社をデジタルチャンピオンとして認定し、投資支援を行なったところである。シンガポール製造技術研究所（SIMTech）とシンガポール再製造技術開発センター（ARTC）では、製造業のデジタル化、スマート化を加速させるために実証実験を行うことが出来るモデル工場を設置している。私たちの役割はテクノロジー企業、サプライヤー、リサーチャー、エンドユーザーなどの主要なステークホルダーをインダストリー4.0エコシステムへと巻き込み、引き合わせることで、総合的なエコシステムを確立し、インダストリー4.0を促進してゆくことである。

発表者：フィリピン貿易産業省 外国貿易サービス公社 フィリピン貿易投資センター（PTIC）クアラルンプール事務所
（在マレーシアフィリピン大使館 商務官）ローザ・カトリーナ・バンゾン氏

フィリピンではインダストリー4.0の促進のためにイノベーション産業戦略（i³S）を策定されている。その戦略には5つの柱、1. 新たな産業クラスターの集積化、2. 能力開発および産業人材育成、3. イノベーションと起業家精神の育成、4. 中小企業（MSME）支援と開発、そして、5. ビジネス・投資環境の改善、が掲げられ、フィリピン国内のサプライチェーンを強化し、製造業者が国際競争力を高め、グローバルサプライチェーンに参画してゆけるための仕組みが取り入れられている。特に重点分野として、1. 自動車産業、2. 電子産業、3. 航空部品、4. 化学産業、5. 鉄鋼、スチール、金型、6. 衣料・アパレル、家具、7. 造船、8. 観光、9. IT、ビジネスプロセスマネジメント（BPM）、10. 農業、11. 建設、12. 交通インフラの12の分野において優先的に取り組みや支援が進められている。また、インダストリー4.0の促進に向けては、第4次産業革命フレームワークの元、フィリピンの技術教育機関であるテストダ（TESDA）が企業に対しトレーニング・教育機会の支援を行っている。

発表者：ジャカルタ商工会議所 海外／E コマース委員会 常任委員長 マルアプ・シアハーン氏

インドネシアにおけるインダストリー4.0に係る状況としては、2018年の付加価値産業の市場規模が2,360億ドルにも及んでおり、国内総生産（GDP）の伸び率が2015年から21%の増加を示していることから、今後、ロボット、ビッグデータ、3Dプリンティング、拡張現実などの分野は大きなビジネスの可能性を有していると言える。インダストリー4.0の促進に向けた産業政策として、メイキング・インドネシア4.0が施行されている。これは政府、学術機関、そして産業プレーヤーなどのステークホルダー間の繋がりを促進し、製造業者が技術的向上を実現する為のロードマップであり、優先的に取り組みを進める分野として、食品および飲料、テキスタイルおよびアパレル、自動車、化学、電機の5分野が挙げられている。インドネシアは製造業の再活性化により2030年には世界の10大経済国を目指しており、今後はIT専門人材の質の向上、持続可能性への適応、デジタルインフラの整備、物流インフラの整備、そして、中小零細企業の育成に注力してゆくこととしている。

発表者：上海市商務委員会 外事処 処長 羅 志松（ラ シソン）氏

上海では外資系企業総数の1/5を占める9,000社もの外資系企業が製造業に従事し、外資系研究開発センターが数多く立地しており、外国からの投資が上海経済の発展にとって大きく寄与しているとともに、インダストリー4.0の実現への大きな原動力となっている。上海市では製造業における外資活用3ヵ年アクションプランを発表し、2017年から2019年までの3年間で200件のハイクオリティプロジェクトを具体化し、ビジネス化してゆくという目標を立てており、それを達成する為に、重点産業とターゲット企業の明確化、連携強化と相乗効果の形成、技術向上の促進と投資と生産の拡大、そしてフォローアップサービスの強化と具体的問題の解決など、6つの解決策を講じている。政府によってもインフラ整備に係る費用や負担の軽減など様々な支援が行われており、外資系企業、特にインフラ建設を行う企業やAI分野などのテクノロジー企業が投資しやすい環境を整えている。

発表者：ホーチミン市人民委員会 産業通商局 副部長 グエン・タイン・ソン氏

ホーチミン市人民委員会は最適な資源活用を通じた速やかで持続可能な経済成長の実現をビジョンとして、2017年に「2017～2020年のホーチミン市スマートシティ建設計画2025」を策定した。この計画の実現に向けて、4つの目標、1. 知識、デジタル経済に移行すること、2. 予測に基づく都市マネジメントの効率性の向上、3. 住みやすさと働きやすさの向上、4. 市民参画を増やすことを挙げ、それらの目標を達成するために5つの解決策、1. 共有データウェアハウスの建設とオープンデータのエコシステムの設置、2. 経済社会シミュレーション・予測センターの設置、3. スマートシティ管理センターの設置、4. 都市都市情報セキュリティセンターの設置、そして5. スタートアップエコシステムの構築を掲げ、このスマートシティ計画を推進してゆくこととしている。インダストリー4.0、そしてスマートシティの実現により、医療、教育、交通、食の安全、環境、また洪水防御、そして電子政府などの生活面で多くの恩恵をもたらされるが、これこそがこの計画の最大の目的であり、長期にわたるプロジェクトとして持続的に取り組んでゆきたい。

発表者：メルボルン市 評議員 ケビン・ルーイ 氏

メルボルンではスマートシティ構想へのアプローチを通じてインダストリー4.0の促進を図っている。そのアプローチとは、センサーテクノロジー、データ分析などの既存ツールやサービスを活用しつつ、IoT、そして人工知能など新たな技術を取り込むことで、そのツールとサービスの向上を図っていくことである。メルボルンはイノベーション特区をいくつか設置しており、メルボルン大学を初めとする様々な教育機関が提携をして、スマートテクノロジーの開発を進めている。主なプロジェクトとして、ごみの量と収集負担を削減するスマートごみ箱プロジェクト、渋滞を緩和するための駐車センサーデータプロジェクト、そしてオープンイノベーションコンテストなど、都市開発や環境における課題を解決するために、市が構築したオープンデータプラットフォームが活用されながら、様々な実験や取り組みが進められている。また、学生、スタートアップ、そして地元のコミュニティが提携をしながら、5GとIoTプラットフォームを使って新しいアイデアを試し、イノベーションを起こしていくことを推奨しており、実験や検証を通じて様々な成果が生まれている。物理的な制限、インフラの未整備、セキュリティ・プライバシー確保などの課題はあるが、皆がこうした取り組みを継続し、課題を解決してゆくことでより良い社会が築けると考えている。

発表者：ハンブルク市・ハンブルク商工会議所 アセアン地区広報大使 ラルフ・シュミット 氏

まず初めに、今年の9月にハンブルクがBPCのネットワークに参加できたことを嬉しく思う。ハンブルクは183万人、近郊を含めると500万人の人口を有し、ドイツ国内において最も重要な港湾都市として栄えてきたが、物流業界だけでなく、航空、環境・エネルギー、医療・ライフサイエンス、食品などの産業も重点セクターとして振興を図っており、多くのクラスターが存在している。インダストリー4.0については、ドイツの国家プロジェクト「ミッテルシュタンド4.0」を通じて、中小企業の製造工程のデジタル化を推進しており、各地に設置されたテストセンターにて様々なプロジェクトが実施されている。ハンブルクにおいても地域のデジタル化実現のため、商工会議所が主導でテストセンターを運営しており、600万ユーロもの財政支援のもと、様々なプログラムを通じて企業に対して最良の実践法を伝達し、異業種間における知識共有を促進するなどの支援を行っている。

発表者：大阪市 経済戦略局長 柏木 陸照

インダストリー4.0に関しては、スタートアップエコシステムの構築に向けた取組を通じて、その促進に努めている。大阪はスタートアップエコシステムの拠点を、西日本最大のターミナルである大阪駅周辺地区に置き、知的創造拠点ナレッジキャピタル内の大阪イノベーションハブ（OIH）においてスタートアップのイノベーション創出を支援するプラットフォームを展開している。主な事業として、ピッチイベント、オープンイノベーション、シード・アクセラレーションプログラム（OSAP）などを実施しており、OSAPにおいては、これまで60社を支援し、合計42億円以上の資金調達に成功している。OIHの実績としては、年間15,000人がOIH主催のイベントに参加、スタートアップによるピッチイベントは年間50回開催しており、結果として成果が現れたプロジェクトは、計292件に上る。さらに、毎年2月又は3月に全編英語で開催されるピッチイベントHack Osakaを通じて、海外スタートアップへの支援等も行っており、広範なグローバルネットワークの構築に向けた取り組みも進めている。今後とも皆様のご協力をお願いしたい。最後に、2025年には大阪で万国博覧会が開催されるが、皆様にはこの万国博覧会がオープンイノベーションの場となり、先端技術の発展・創出に結びつけることができるイベントであることをご留意いただきたい。

【ディスカッション】

※ モデレーター（マレーシア貿易開発公社（MATRADE）カイルル氏）の進行による

- 最初に、インダストリー4.0に向けて、BPC間でどういった連携が取られるべきか、について質問がなされた。

マレーシア国際貿易産業省（MITI）からの発言：

インダストリー4.0、スマートシティの実現の為には、様々なモジュール、スキル、テクノロジーが必要となるが、特に途上国は多くのリソースが無い為、それぞれの都市がどういった取り組みを行い、現地で何が起こっているのかを理解し、技術移転、共同トレーニングやワークショップなどを通じ、国際的に連携を進めてゆくことが重要である。今後、MITIにおいてはスマートシティとヘルスケアの分野に注力し、取り組んでゆきたい。

ハンブルク市・ハンブルク商工会議所からの発言：

ハンブルクでは大学が中心となりテクノロジーを駆使した様々な実験や取り組みが行われており、そこに中小企業が参画し、実質的な連携をすることで改善を図ってゆくことが可能である。ドイツでは中小企業における世代交代が進んでおり、過去50年間続いてきた旧体質の経営をマインドセットした新しい世代が違う形に変えていく時期にきていると感じている。

ホーチミン市人民委員会からの発言：

ホーチミン市は2017年にスマートシティ構想を掲げ、将来的にはその先進国になることを目指しているが、各都市の取り組みの中で特にメルボルン市のごみの削減など環境に配慮した取り組みは素晴らしいと感じており、ホーチミン市においても取り入れたい。ホーチミン市は日本との長い協力関係があり地下鉄などの都市インフラが整備されてきた経緯がある。このスマートシティの構想においても、大阪やハンブルク、そして他のパートナー都市に実際にホーチミンに来ていただき、それぞれの協力を得ながら構想を実現して参りたい。

○ 次に、スマートシティ構想の実現に向けた課題とその解決策、について質問がなされた。

クアラルンプール市からの発言：

クアラルンプールではスマートシティ構想の一つとして、クラウド、IoT、モニタリングシステムなどを活用し交通網の効率化を促進するという取り組みを行っている。次の挑戦として、スマートごみ箱の普及によるごみ問題に取り組んで参りたいが、そのためにも、交通状況のモニタリングだけでなく、アプリを使って都市全体の状況が把握できるようなシステムを構築してゆく必要がある。

○ 各都市の発言を受け、モデレーターのカイルル氏より以下の発言があった
インダストリー4.0の実現のためには、スマートテクノロジーをそれぞれのプロジェクトに上手く適用していくということ、そして、国家の政策というものがあるが、まずは各都市が地元の中小企業を巻き込んでそれぞれの取り組みを進め、成長してゆくということが大切である。

○ モデレーターのカイルル氏より、自身の発言に対しての意見、感想が聞かれた。

大阪市からの発言：

大阪でも企業が成長し大きくなることで大阪から大企業が流出してしまうという問題があるが、それでも大阪市が中小企業やスタートアップを対象としたイノベーションプラットフォームを展開するのは、それを推進すること無しには中小企業を育てていくことが出来ないためであり、地域の課題解決にもつながるものと考えている。そして、2025年の万国博覧会に向けてこのプラットフォームを構築することで大企業にも参画してもらおうという戦略を持っている。都市の成長のためには、まず情報と体験の共有が重要であり、実質的な経験に基づき、戦略を展開し、成長のための仕組みそのものを作ることが重要である。

マレーシア国際貿易産業省（MITI）からの発言：

スマートシティの実現に向けた各都市の具体的な高付加価値なものづくりのための政策や実践について伺ってみたい。

エンタープライズ・シンガポールからの発言：

インダストリー4.0とスマートシティの境界がはっきりせず、それぞれの状況やアプローチは異なるが、企業、市民、そして都市が同じ目的を持って、それぞれがこの取り組みを継続することが大切である。

ジャカルタ商工会議所からの発言：

ジャカルタにおいては新たなテクノロジーが中小企業、特に食品業界の成長に繋がっている。例えば、ゴジェック（GO-JEK）というプラットフォームがある。これは1200万人が住むジャカルタでの交通渋滞を緩和すると共に食品バイヤーとセラーを結び付け、新たなローカルビジネスそして、業務の効率化を産む可能性のある画期的なシステムである。

香港貿易発展局からの発言：

香港におけるスマートシティ構想での最大の挑戦は、増加している高齢者をいかにこの構想から取り残さないかということがある。香港政府は10億香港ドルのファンドを作って、高齢者をテクノロジーの部分で支援し、スマートシティで生活することに慣れるよう取り組んでいる。また、膨大なビッグデータに繋がる個人データの収集に関して、政策を持って透明性を高め、このスマートシティ構想において適正に活用してゆくことが重要である。

メルボルン市からの発言：

メルボルン市におけるスマートシティとは、公共の場と市民の私生活において必要となる小さなテクノロジーの開発も含むのであるが、その取り組みを進める上では、公的な立場として透明性を確保しつつ、情報や計画を公開しながら、政治的な判断を下していくことが重要と考える。そして、都市の問題を解決するために、企業には一定の財政的支援を行いつつ、様々なプレーヤーとともにマーケティングを行い、様々なインフラやアプリケーションを構築し、そこから競争が生まれるといった流れが理想的である。

- モデレーターのカイルル氏より、インダストリー4.0の実現に向けて前進する上で直面する問題および課題に対していかに取り組んでゆくのか、についての質問がなされた。

フィリピン貿易産業省 外国貿易サービス公社からの発言：

インダストリー4.0の実現に向けては民間企業の役割やサポートがなければ成し遂げることが出来ないということは認識しており、政府として中小、零細企業に向けた支援プログラム、インセンティブも提供してきている。また、新たなテクノロジーを取り入れるためにも、教育機関、特に技術系専門学校、そして海外の機関との連携を促進してゆくことが大切である。

エンタープライズ・シンガポールからの発言：

シンガポールでは天然資源と人的資源の面で限界はあるが、テクノロジーによって解決できる部分があるため、テクノロジー分野での取り組みに注力してゆく価値はある。しかし、実際にその取り組みを進める上で、企業にとってはいかにマインドセットを行うかという点が難しい部分である。個々の企業がテクノロジーの活用法や効果、コンセプトを理解できるということ、そしてインダストリー4.0とは何か、それによってどうやって進化していけるのかということを理解出来ることが大切である。

【閉会挨拶】マレーシア貿易開発公社 最高経責任者（CEO）ダト・ワン・ラティフ・ワン・ムサ氏
各都市がインダストリー4.0における現状について話し合うことが出来、非常に有意義な会議となった。ビジネスパートナー都市の中には先進的な都市もあれば、そうでない都市があることから、中央政府と市政府が果たす役割はそれぞれ異なってくる。大阪市のように独立的に取り組むを進める都市もあれば、中小企業の発展の為に中央政府が中心となって取り組みを進める都市がある。一方でそれぞれの都市が地域社会における共通の課題をもっている点は本会における非常に興味深い気づきであった。インダストリー4.0の実現に向けては、私達はグローバルサプライチェーンの中に統合されており、変革に順応できてないと世界から取り残されてしまうだけであり、もはや取り組まないという選択肢はない。今後は、我々がよりスマートな都市に変わるよう、先進的な取り組みを進める都市とのオープンな連携を進めて参りたい。

- 最後にマレーシア貿易開発公社が主催する展示会「マレーシア国際ハラル見本市（MIHAS）」のプロモーションビデオを鑑賞した。

BPC ネットワーキング昼食会 開催報告

21日（木）のラウンドテーブル会議終了後には、マレーシア貿易開発公社主催により「BPC ネットワーキング昼食会」が開催されました。会場ではラウンドテーブル会議参加者、MATRADE 関係者、そして大阪からのビジネスミッション団との間で様々な事項について情報交換が行われました。

プログラム名	BPC ネットワーキング昼食会
開催日時	2019年11月21日(木) 12:30～14:00
会 場	MATRADE 本部ビル 23階（中二階フロアー）
主 催	マレーシア貿易開発公社（MATRADE）
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、BPC ビジネスミッション団他



MATRADE 施設視察ツアー 実施報告

21日（木）午後には、マレーシアの輸出産品と貿易史、そして MATRADE が運営する国際展示会場 マレーシア国際貿易展示センター（MITEC）の紹介を目的に MATRADE 施設視察ツアーが実施されました。

プログラム名	MATRADE 施設視察ツアー
開催日時	第一部：2019年11月21日(木) 14:30～15:30 第二部：2019年11月21日(木) 16:00～17:00
視察先	第一部：マレーシア輸出展示センター(MEEC) ～ トレードミュージアム 第二部：マレーシア国際貿易&展示センター(MITEC)
主 催	マレーシア貿易開発公社（MATRADE）
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、事務局関係者 約30名
視察内容	【第一部】 マレーシア産品の輸出プロモーションを目的に設置された MEEC は、4,500平方メートルの広大な展示スペースに自動車、医薬品、エレクトロニクス、食品など30分野からなる500社以上の輸出品が3つのコーナーに分かれて展示されている。平日に一般開放されており、年間に約7000名が新たな商品・サービスの開拓のため同施設を訪れる。参加者はそれぞれ関心のあるコーナー、製品を見学し、専属のツアー

ーガイドからもより詳しい内容をヒアリングした。

トレードミュージアムはマレーシアの貿易史を紹介する施設で、ゾーン 1 では何世紀にも渡るマレーシア貿易の移り変わり、ゾーン 2 では独立後の国内外における貿易の発展に至った出来事や政策、資源などが紹介され、ゾーン 3 はインフォメーションセンターとして来場者が貿易に係る過去の協定、政策、マスタープランなどの情報が確認できる。

【第二部】

MITEC は、官民共同プロジェクトによりナザ TTDI 社 (Naza TTDI Sdn Bhd) が開発中の複合プロジェクト「KL メトロポリス (Metropolis)」の一部で、6 億 2800 万リングを投じて 2017 年 8 月にオープンした展示会場である。マレーシア国内最大の展示場となる MITEC の展示スペースは 3 階建ての 11 ホールで展示面積は 4 万 5,348 平方メートル。展示部分の収容能力は 4 万 7700 人、宴会場のバンケットホールは 2 万 8000 人となる。現在、利用率をあげるため、官民一体となり国内外のイベント運営会社に向けて営業を行っている。



マレーシアビジネス商談会 2019 開催報告

BPC ラウンドテーブル会議の併催プログラムとして、MATRADE 本部ビル内の別会場にて、大阪市、マレーシア貿易開発公社の主催により「マレーシアビジネス商談会 2019」が開催されました。商談会では、食品、医療、インダストリー4.0 の分野において新規商材の発掘を検討する企業（バイヤー）と販路開拓を希望する企業（セラー）とで構成される在阪企業（合計 9 社）とマレーシア現地企業との間で個別商談が行われました。

プログラム名	マレーシアビジネス商談会 2019
開催日時	2019年11月21日（木） 14：00～17：30
会 場	マレーシア貿易開発公社(MATRADE) 本部ビル 5 階「ジャカルタルーム」
主 催	大阪市、マレーシア貿易開発公社、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会
参加大阪企業	<p>【バイヤー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社エヌエス・インターナショナル 2. 吉川化成株式会社 マレーシアクラン工場（YPC (Malaysia) Sdn.Bhd.） 3. 日本流通産業株式会社 4. ボーダレス・プランニング株式会社 <hr style="border-top: 1px dotted black;"/> <p>【セラー】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 株式会社アトラス 2. ナニワ研磨工業株式会社 3. 小倉屋株式会社 4. ジパングカフェ 5. 株式会社シマナカ
実績	<p>【バイヤー】 商談件数 ： 28 件 有望商談件数： 14 件</p>
	<p>【セラー】 商談件数 ： 44 件 有望商談件数： 11 件</p>



BPC ネットワーキングレセプション 開催報告

BPC ラウンドテーブル会議当日の夕刻には、大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会の主催で「BPC ネットワーキングレセプション」が開催されました。会場ではラウンドテーブル参加者をはじめ、外国公館・経済団体関係者、ビジネスミッション団などから約 60 名が参加し、交流、親睦を図りました。

プログラム名	BPC ラウンドテーブル ネットワーキングレセプション
開催日時	2019 年 11 月 21 日 (木) 18:30 - 20:30
会 場	サンウェイプラホテル クアラルンプール 35 階「Meet on 35」
主 催	大阪市、大阪ビジネスパートナー都市交流協議会
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歓迎挨拶 大阪市 経済戦略局長 柏木 陸照 ○ 来賓挨拶 マレーシア貿易開発公社 副最高経営責任者 (CEO) モハド・ムスタファ・アブドゥル・アジズ 氏 ○ 乾杯挨拶 在マレーシア日本国大使館 次席・公使 荒木 要 氏 ○ 閉会
出席者	BPC ラウンドテーブル参加者、在外公館・経済団体関係者、ビジネスミッション団、マレーシア企業など約 60 名



MATRADE 副 CEO による来賓挨拶



クアラルンプールシティーツアー（オプション） 実施報告

BPC ラウンドテーブル会議翌日の 22 日（金）にはクアラルンプール市政府主催で「クアラルンプール シティーツアー」が実施され、ラウンドテーブル会議参加者はクアラルンプール市庁舎をはじめ、ジャメ・モスクやリバーオブライフエリアなどを訪問し、クアラルンプール市の歴史や街づくりについての理解を深めました。

プログラム名	クアラルンプール シティーツアー
開催日時	2019 年 11 月 22 日（金） 9:30～13:00
主催	クアラルンプール市政府
訪問先	<ul style="list-style-type: none"> ○ クアラルンプール市役所 ○ ジャメ・モスク ○ リバーオブライフエリア ○ クアラルンプールシティギャラリー ○ クラフトコンプレックス ○ イリュージョン・ミュージアム
参加者	BPC ラウンドテーブル参加者、大阪 BPC 交流協議会 関係者など 14 名

